

第 12 回美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施について

博物館・美術館に展示される貴重な美術品・文化財等の取扱いや、その梱包輸送には、一定の知識・技能が必要だが、平成 20（2008）年前後、ベテラン作業員や古参の学芸員が定年退職し、後継者養成に困難が生じていた。他方、国公立の博物館・美術館では、競争入札で、経験のない梱包・輸送会社が落札し、美術品等が毀損されるような事態が懸念された。そこで、後継者に技能継承のインセンティブを与え、より多くの梱包・輸送業者の技術水準の向上を図るとともに、技術が未熟な運送会社への落札を回避できる方策として設けられたのがこの認定試験である。日本博物館協会では、平成 24（2012）年から、この認定試験を実施しており、この度、12 回目の認定試験を実施したので、報告する。

1 級の認定試験

令和 4（2022）年度の夏枯れ時期である 8 月は、東京は新型コロナウイルス感染症の第 7 波の最中だったが、感染防止策を施した上で、6 日土曜日に実施した。1 級は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、取扱いの難しい作品の梱包設計が行える水準を想定しており、経験年数 10 年以上と 2 級の保有を受験資格にしている。試験は筆記試験と口頭試問で、今回も感染防止のため、広い空間の利用できる東京国立博物館の平成館で実施した。受験希望のある 4 社に受験者の枠を振り分け、10 名で試験を実施した。筆記試験は、京都市の南禅寺にある月蓋長者像、善財童子像、十六羅漢像（いずれも江戸時代）の 18 軀を東京国立博物館平成館特別展示室に輸送し、展示会後返却するに際し、その下見において、留意すべき点と、留意すべき理由を記述する問題が出題された。試験時間は 90 分、60%が合格の基準である。合格者は 3 人だった。午後の口頭試問では、エジプトのカイロ市にあるエジプト考古学博物館の石彫、木彫、銅像、石製品、宝飾品など 130 件を、現地で梱包して、東京国立博物館まで輸送し、展示後、返却するまでの全行程を担当する際、下見の際に調べるべきポイントや、トラブル時の対応について、面接官からの質問に答えてもらった。1 人 30 分間で、梱包設計の詳細について問うとともに、技術集団を統括し、きちんと説明することができる人物であるかどうかを審査した。合格者は 7 人だった。両方に合格して 1 級を取得したのは 10 人中 3 人となり、平年並みの結果だった。

2 級の認定試験

2 級の認定試験は、令和 5（2023）年 2 月 19 日日曜日、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。例年は 3 級の認定試験と同時進行で、2 日間実施しているが、今回は、平成館 3 階の会議室の一部が改修工事で、表慶館が展示で、裏庭の茶室が庭園開放で使用

できなかつたため、3級と日を分けて、1日に限って実施することとした。直前になって、平成館の会議室の一部が使用できるようになったが、受験者確定後だったので、実技試験会場の一部を変更するにとどめた。この試験は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準を想定しており、経験年数5年以上で、3級を保有していることを受験資格にしている。筆記試験、実技試験、面接があり、実技試験は梱包の基礎である陶磁器と、特有の基礎知識・技能を必要とする茶道具を課している。面接試験に合格して他の試験で落ちて、再受験する者については、面接試験を免除している。コロナ前は、面接免除か否かを問わず、60人の定員で募集していたが、今回は42人の定員で募集し、受験者を絞らせて頂いた。各社のご協力にこの場を借りて御礼申し上げます。2級の認定試験は、例年は、東京国立博物館平成館での実技試験から始まるが、今回は、感染防止の観点から班を小さくするとともに、多くの人に受験機会を与えるため、例年の3班編成を6班編成にし、うち3班は、黒田記念館での筆記試験、昼食、平成館での実技試験の順で受験してもらった。実技試験の際のチェックポイントは、受験者の研鑽に資するため、博物館協会のホームページで公表している。ただし、合否の判定は、このリストにある項目の得点や減点によるのではなく、審査員目で見て、「この受験者に作品を任せられるかどうか」を基準にしている。茶道具の実技は、箱に収まっている茶碗を取り出し、コンディションをチェックして、必要があれば内梱包して、箱に戻す作業を求めた。41人の受験者（1人欠席）中、不合格者は6人、コメント付きの合格者が6人だったが、速やかで仕上がりも美しい者に与えられる二重丸を1人が獲得した。陶磁器の実技は、綿布団を作成して、内梱包を行うことを求め、5人が不合格、コメント付きの合格者が5人、二重丸が2人だった。筆記試験は、博物館協会の編集で出版している「博物館資料取扱いガイドブック」から出題する。博物館資料の取扱いや梱包・輸送、保存について多肢選択式で回答を求めるが、該当する選択肢がなく、「なし」と答える「ゼロ回答」の問題も含まれる。回答時間は50分で、32問。65%の正解が合格の基準である。今回も、黒田記念館で実施したが、8名の不合格者が出た。先に実技試験を受けた3班が筆記試験を終え、先に筆記試験を受けた3班が実技試験を終えた後、黒田記念館で講習を実施した。内容は、主として実技試験の振り返りを行った。講習の後の面接試験は、全て黒田記念館で実施した。コミュニケーション能力と指導能力の確認を主目的として実施している。今回は不合格者が一人出た。所要の試験全てに合格し、2級の認定試験に合格した者は、受験者41名中28名、合格率は68%で、去年の62%をやや上回った。

3級の認定試験

3級の認定試験は、会場準備の手順の関係から、2級の認定試験の前日、2月18日の土曜日、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。直前になって、この手順は変更

したが、受験者決定後だったので、そのまま2級に先立って実施した。3級は、需要が多く比較的取扱いの容易な陶器、額装作品、掛物などを所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができる水準を想定し、2年以上の経験を要求している。筆記試験と複数の実技試験を受け、全ての試験に合格することが3級認定試験合格の条件となっている。会場と感染防止の関係で、コロナ前は90人だった定員を32名に減じて募集した。受験希望者数は58人で、今回も人数の調整をお願いした。この場を借りて、ご理解ご協力に感謝申し上げます。なお、3級では、筆記試験に合格して実技試験で不合格だった受験者が再受験する場合、筆記試験を免除しているが、今回の筆記試験免除者は8人だった。午前中に実施する筆記試験と講習は、今回も黒田記念館で実施した。筆記試験の第1問は、自習用「ガイドブック」の第1章「美術品の取扱いの基礎知識」の1部を示し、空欄に入る語を選択する問題。第2問は、掛物、卷子等の矢印で示す部分の名称を、選択肢の中から記号で答えるとともに、読み仮名を記す問題を出題した。今回も70%の正答を筆記試験合格の基準にした。受験者31名（欠席1名）中、不合格者は2名にとどまった。筆記試験に次いで同じ会場で講習を行い、実技試験で実施する額装作品、陶磁器、掛物の模範的な梱包作業をビデオで示し、解説した。今回使用したビデオは、有志の委員がこの認定試験に合わせて作り直した新しいビデオであり、博物館協会のホームページで公開している。自学自習にご活用願いたい。午後に実施する実技試験は、東京国立博物館の平成館で実施した。例年は、額装作品については全受験者が受験し、もう一つは、予め振り分けられた班により、掛物か陶磁器のいずれかを受験するが、今回は、会場の関係で掛物は実施せず、全員陶磁器実技を受験してもらった。額装の実技試験では、6号の額装絵画を、国内輸送用に段ボール箱を作成して梱包する。陶磁器では、与えられた綿布団を使用して内梱包を行うことを求めた。実技試験の合否の基準は2級と同じだが、額装については、作業効率も求められることから、制限時間（額装の場合40分）以内に作業が終了できない場合、一律に不合格としている。他の作品分野では、制限時間内に作業が終わらなかった場合、一律には不合格とせず、総合的に判断している。受験者31人の実技試験の成績は、額装は不合格5人、コメント付き合格1人、二重丸が5人だった。陶磁器は不合格2人、コメント付き合格7人、二重丸2人だった。この結果、所要の試験に全て合格し、3級の認定試験に合格したのは、受験者31人中24人で、合格率は77%と、昨年、一昨年より10ポイント前後改善した。これは各社で受験者を絞り込んで頂いた結果であると見ている。

今回の認定試験の反省等

5月1日に、今回の認定試験の反省会を開催した。2級・3級試験については、当日間近になって会場を変更し、準備に手間取ったが、全体の人数が例年より少なく、オペレーションが単純だったためか、当日はスムーズに進行し、特に苦情はなかった。受験者から、試験会場で、受験票を何時・何処に置くか、指示が徹底しなかった。2級の講習でも手本

を見せて欲しいという声があり、次回是对应するよう努めることになった。陶磁器実技試験については、この3年間、1人梱包で実施してきたが、これは飽くまで感染症対策のための暫定措置であり、新型コロナ感染症が5類に移行する予定であったことから、次回からは元に戻し、2級・3級とも助手を付けることになった。今年度の1級試験は、8月5日土曜に実施することになった。会場については、黒田記念館で「密」状態になることはまだ避けたいことから、東博平成館で行うことになった。2級・3級試験は、2月の10日・11日又は17日・18日の週末に実施することになった。定員については、大手事業者の受験者が一巡し、受験者数が減少することが見込まれたが、新規に受験を希望する会社があり、すそ野を広げて行くべきことから、60人、90人に戻す方向で検討することになった。定員に余裕が出てくる可能性があることから、当初の構想通り、この認定試験を学芸員に開放することに議論が及んだが、今になって考えると、講習会の方が現実的であることから、学芸員用の講習会を開催する可能性について、今後、検討することになった。認定試験の申し込みをデジタル化すること、申し込みの捺印を省略することについて、要望があった。デジタル化はすでに協会で検討を開始しており、捺印省略についてはその方向で検討することになった。3級の実技試験の模範動画はあるが、2級についても欲しいという要望に応え、模範動画を作成する方向で検討することになった。